

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



昔ながらの脱穀風景。黄土高原の農民は必要最低限のエネルギーで暮らしている

### Contents

- 石弘之さん講演会『21世紀の地球環境問題』ご案内 ... P 1
- 黄土高原における緑化協力はわかり ..... P 2
- サントリー労組ワーキングセミナー ..... P 7
- 2001春のワーキングツアー予告 ..... P 4

2000.11

76

総集編

## 石弘之さん講演会『21世紀の地球環境問題』 ぜひ、ご参加を！

岩波新書『地球環境報告I・II』をお読みになった本誌読者もたくさんおいでだと思います。著者の石弘之さんは元朝日新聞の編集委員で現在は東京大学大学院教授ですが、いまも環境問題をおって世界中を走り回っておられます。その石さんをおむかえして、21世

紀の地球環境はどうなるのか、お話をうかがいます。

この機会に、たくさんの方に聞いていただきたいと思います。ぜひご参加ください。

●日時：11月29日（水）18時30分～20時30分（開場18時10分）

●場所：クレオ大阪西 ホール（定員380人）（JR環状線・阪神「西九条」駅徒歩3分、大阪市此花区西九条6-1-20、TEL. 06-6460-7800）

●参加費：一般 1,000円、GEN 会員・学生 700円

●申込み：ハガキ・FAX・e-mailで GEN 事務所まで

●主催：緑の地球ネットワーク（GEN）

●後援：朝日新聞社

## 年末カンパをお願いします

199年初頭から開始したGENの活動はまる9年を経過しました。

この間、山西省大同市の黄土高原緑化活動は一步一步進んでいます。今年度は、霊丘自然植物園の基礎がほぼ完成しました。地球環境林センターは20haに拡大し、質量ともに充実していきます。「カササギの森」も開始しま

した。各地の地球環境林、小学校付属果樹園の緑化協力活動にもこれまでどおり取り組みます。これらの協力活動と日本での活動を支えるためにみなさんのご協力をよろしく願います。

現在会員数600名あまり、活動を支えていただいています。まだ会員でない方、入会をお待ちしています。

## GENの活動にご協力ください

◆会員になってください！

GENの運営はみなさんの会費でさえられています。ぜひ会員になってください。年会費は4～5頁の下部に書いてあります。

◆カンパにご協力ください

緑化基金、運営カンパを随時受け付けています。空き缶募金箱用のステッカーを用意していますので、お入り用の方はGEN事務所にご連絡ください。

◆“カササギの森”に参加しませんか  
前号でお知らせしたところ、15ha分が集まりました。1ha5万円です。カササギの遊ぶ森づくりに、あなたも参加しませんか。

◆ツアーなどのイベントにご参加を！

黄土高原ワーキングツアーをはじめ、講演会、学習会、自然と親しむ会などのイベントをおこなっています。関東ランチも学習会をおこなっています。（関東ランチの連絡先：〒171-8501 豊島区西池袋3-34-1 立教大学文学部 上田信あて E-mail: ueda@rikkyo.ac.jp FAX. 03-3985-4790）

◆ビデオをご利用ください！

ビデオ『森よ、よみがえれ！』28分・5,000円（会員価格4,000円、送料270円別）▼環境事業団地球環境基金制作協力／文部省選定／環境庁、林野庁ほか推薦／中華人民共和国駐日本国大使館推薦

◆使用済テレカ・書き損じハガキ回収

苗木代や通信費に使います。テレカ以外のカードや古切手は対象外です。

## タネはなかったけれど……

神戸森林植物園で自然と親しむ会

10月22日、雨男の立花吉茂先生が参加するというのに朝から快晴だ。ボーイスカウトの少年9人を含め、総勢40名が集まった。今年は何だけタネが採れるかな……と期待しながら、午前には神戸市立森林植物園の福本市好さんの説明で園内を散策。福本さんが「この木は……」といえは皆さわさわと集まる。そして「ふーん」という感心ともつかない吐息がフィトンチッドの爽快な香りをともなって伝わってくる。通りすがりの人が「なにかの会ですか？」と興味深げに聞いてきた。

横で少年たちが「わーバクダン、バクダン」と走り回っている。「バクダン!？」そう、爆弾の形をしたトゲトゲの実で、本名オナモミというワンパク少年たちにとってはなくてはならないツールなのだ。しばらく歩いていると今度は「わー栗だ!」殻をつまんで投げています。トゲトゲのものは少年の心をくすぐるらしい。

それにしても、タネがない……。今

年は毛虫が大発生して、そのせいで実がつかなかったという。昨年はたくさんあったのに残念だ。

お昼はそれぞれ思い思いに弁当を食べた。秋空の下で食べる弁当ほどおいしいものはない。食べ終わる頃、空が少し雲ってきた。午後は立花先生の説明だからなのか？ パワーが天に届きつつあるのかも知れない。不思議だ！1本1本の木について立ち止まっては、特徴を説明したり、加えて、山火事や開墾のあと、もとにもどるのに30年かかる話など、普段は知ることのできない植物の深さを教えてもらった。こういう勉強だったら毎日したいと思う。充実した1日だった。（富樫）



# 黄土高原・緑化協力はやわかり

～9年間のあゆみ～



GEN が中国黄土高原の大同で緑化協力をはじめたのは1992年。ボランティア国際年でもある2001年には10年目をむかえます。地元の人たちと協力してすすめた植林は969万本、3,160haになりますが、最近では育苗・栽植の技術改善、人材の育成とネットワーク化などソフト面の協力を力を入れており、数字では表せなくなってきました。

## ●地球環境林●

この名で呼ぶようになったのは94年からですが、名前のおり環境改善が主目的で、山地・丘陵地の緑化をすすめる植林プロジェクトの本命ともいべきものです。中国東北地方原産のモンゴリマツ（樟子松）は、まっすぐな樹型が歓迎されてさかんに植えられています。恒山などに樹齢数百年の大木が残るアブラマツ（油松）、1,600m以上の高地に適したカラマツ（華北落葉松）の3種類のマツが造林樹種の主力です。そのほか、ニセアカシア、ポプラ、ヤマナラシなども用い、また97年度からはサージヤネイジョウといった灌木やシンジュ（ニワウルシ）をマツと混植するようになりました。

植えるマツ苗は2年生、地上部の長さはせいぜい15cmほど。ちょっとたよりなく見えますが、その方が活着がよく、作業も効率的です。

2000年春から菌根菌を接種して育てた苗を植えたところ、厳しい干ばつにもかかわらず90%程度の活着率を示しました。従来は植えた年の降水量で活着率が大きく左右されたことを思うと、菌根菌の効果は目を驚かすものがあります。

植えて最初の冬は、苗木は土でおおわれます。冬の寒さと乾燥から守るためです。広い造林地のたくさんのマツを土でおおい、春には1本ずつ掘りだす大変な仕事を、地元の人たちがおこなっています。



初期に植えたマツは110cmほどに育ってきました。これからは、年に20～30cmずつ伸びていくので、もうすぐ林らしい姿を見られるようになるでしょう。

現在までに80プロジェクト（同じプロジェクトを数年間継続している場合もあり、その延べ数）、2,497.6haに9,123,200本を植樹しました。

## ●小学校付属果樹園●

小学校に通えない子どもがいる。そんな村の教育事情をなんとかしようと、93年度から小学校付属果樹園の建設をはじめました。果樹園の収益を教育の改善に役立ててもらうためのプロジェクトです。

村から少し離れたところにつくることが多い地球環境林と違って、村



学ぶ喜びをどの子にも.....

の生活圏につくられるこの果樹園の受け入れをめぐっては、村中で議論になったところもありました。日中戦争の時、日本軍に抵抗して戦った歴史を誇りにしているお年寄りたちには、日本からの援助を受け入れることに抵抗があったのです。そんなお年寄りを説得した

のは共青团の若者たちでした。これからの平和の時代のシンボルとして受け入れよう.....。村に泊まり込んで説得にあたった青年たちの熱意に、お年寄りも納得してくれました。

さらにいくつかの村では、労賃として渡されたお金をプールして、小学校校舎や給水設備の建設につかうなど、村人たち自身の発案でこの協力をより実り



渾源県呉城郷ではアンズが豊作だった

あるものにしてくれました。

99年には初期の小学校付属果樹園で初めての収穫があり、その成功に大同では果樹栽培熱がひろがっています。

いままでに58か所、合計661haに567,000本のアンズやリンゴなどが植えられました。

●環境林センター●

ひとくちに大同市といっても、1万4千平方kmあり。大阪府、京都府、兵庫県をあわせれば面積です。年々ふえていくプロジェクトの状況を把握するだけでも大変なことです。それらをきちんと統括し、技術指導にもつながるシステムが必要になってきました。

その中心として、95年から、交通と水利にめぐまれた南郊区平旺郷で、環境林センターの建設がはじまりました。見本園、苗畑、温室、実験・



下図の管理棟付近から播種区をのぞむ

研修施設、宿泊施設を備えています。2000年春、20haに拡張することが決まり、給水・排水設備の建設準備や、土壌改良のための堆肥づくり、腐葉土採取などがすすんでいます。

また、センターには最近GENの緑化協力の基地以外の役割も求められるようになってきました。共青团中央主催の国際ワークキャンプを受け入れたり、近隣の学校からの見学もあります。日本のODA民間モニターも訪れました。政府関係者や林業局関係者の視察も多く、緑化の大切さをうたえるためのショーウィンドウ的な場所になってきたのです。

GENが建設・運営に協力しているセンターが、地域の緑化の中心になりつつあることは、とても有意義なことです。そのために、見学コースの設定や案内板の設置など、充実した施設づくりが求められています。

●霊丘自然植物園●

自然植物園の建設は、立花吉茂代表がこの活動に参加を決めたときにGENにあえられた課題でした。

この場合の植物園は、レクリエーションの場ではなく、気候条件に適した植物をあつめ、試験栽培する見本園の役割、放牧を排除して自然の植物遷移を観察する自然植物園としての役割、技術者が植物の知識や栽培技術を身につける人材育成の役割をもち、多様性のある森づくりをささげる大切な場所です。

98年、実現のために動き出したところ、大同市南部の霊丘県太行山中に落葉広葉樹の自然林がみつかり、計画にはずみか



霊丘自然植物園の管理棟が完了



した

●カササギの森●

いままでの植林プロジェクトは現地(村)が主体で、ワーキングツアールで訪ねてもどこか「お客さん」で物足りない、というGEN会員の声。大同事務所からは、自分たちで実験的な植林方法を試せる林場がほしいという要望がでていました。その両者をドッキングしたのが新プロジェクト、「カササギの森」です。

1haあたり5万円の植林費用(管理費等をふくむ)を1口として寄付を募り、集まったお金はこのプロジェクトに限定して用います。寄付者には、現地の記念碑に名前をきざみ、協力者証や写真報告を送ります(5年間)。またここでは、先に草を伐らせて土壌改良してから木を植える、といったような植林方法を試したりします。

交通の便利な大同県聚樂郷の谷筋を中心に、800haの土地を50年間借りました。実際に植林できるのは500haほどですが、ポプラ、シンジュ、

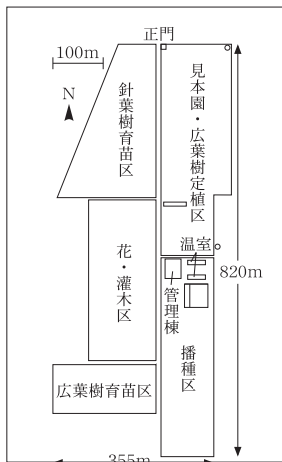


小さな流れがある「カササギの森」

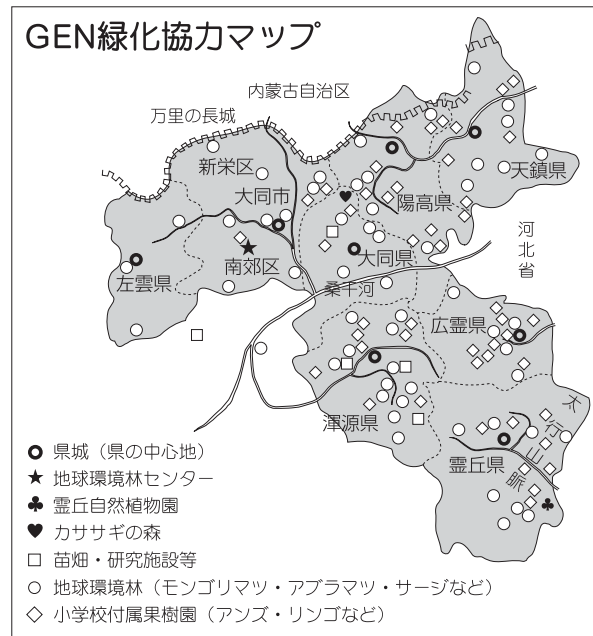
マツ、アンズ、サージ、などさまざまな樹種をいろいろなやり方で育てて、カササギやリスが遊ぶ豊かな森をつくらせたいと思います。

また、この周辺にはGENのプロジェクトをふくめた造林地が集中しているため、今後は「カササギの森」を中心とした短期のスタディツアーを実施したいとプランをねっているところだ。

環境林センター見取り図



GEN緑化協カマップ



- 県城 (県の中心地)
- ★ 地球環境林センター
- ◆ 霊丘自然植物園
- ♥ カササギの森
- 苗畑・研究施設等
- ◇ 地球環境林 (モンゴリマツ・アブラマツ・サージなど)
- ◇ 小学校付属果樹園 (アンズ・リンゴなど)



中国山西省大同市における緑化協力活動の実績

年度	山林樹種		果樹		苗圃など緑化拠点およびソフト面の協力		合計 費用(千円)
	事業数	数量(本)	面積(ha)	事業数	数量(本)	面積(ha)	
1991				1	1,000	4.2	25
1992	2	250,700	70.8	1	20,000	85.0	2,600
1993	7	1,210,500	343.6	5	52,600	52.7	12,224
1994	10	457,100	135.8	13	190,200	175.9	20,788
1995	15	1,118,800	489.3	8	84,000	95.7	23,006
1996	12	1,325,800	466.6	10	69,900	98.5	28,220
1997	16	2,219,300	490.0	7	53,600	60.0	27,334
1998	7	957,000	191.0	7	47,850	47.0	38,322
1999	11	1,584,000	310.5	6	47,850	42.0	32,227
合計	80	9,123,200	2,497.6	58	567,000	661.0	184,796

※山林樹種は、山地・丘陵など荒地の造林緑化に用いているもので、1.モンゴリマツ、2.アブラマツ、3.カラマツが中心であり、そのほかに4.ニセアカシア、5.ポプラ、6.ヤマナラシなどを使用している。97年度からはサージ、ネイジョウ、ニワウルシ(シンジュ)などを利用して、混植をすすめている。

※果樹は、主として貧しい農村の教育条件の改善のために、小学校付属果樹園を建設しているもので、1.仁用杏(種子の中の仁をとるアンズ)、2.京杏(果肉をとるアンズ)、3.リンゴ、4.スモモ、5.ナシ、6.クルミ、7.ブドウ、8.サンショウなどを植えている。

※合計費用は、現地プロジェクト建設のための直接経費であり、ワーキングツアールや専門家・スタッフの派遣費用などはふくまれていない。

※同じプロジェクトを数年間継続している場合もあり、合計事業数はその延べ数になっている。



## ●ワーキングツアー●

毎年春と夏のGENのツアーに加えて、協力団体が派遣する独自の団もあり、大同を訪ねた人は1歳半から82歳までのべ980人になりました。

参加者の感想をご紹介します。

▼この旅は緑化協力なんていう大げさな名より、農村体験ツアーだ。観光だけではわからない中国が見れた。

▼想像してたのと全然違った。日本



作業の合間に交流を楽しむ



村の人たちといっしょに植樹に取り組む

人がわっときて、日本人だけでやるのじゃない。中国の人が植えてるのバックアップで、どうしたらいいか現地の人と話をしながら緑化していくのがいい。▼最初、『50年、100年後のために木を植える』という話を聞いた。すぐに成果を求める私にとって、頭をガツーンとやられるような話だった。▼帰ってから自分が何をすべきかずっと考えていたが、実行にお金がかかったり、非現実的な答えしか思いつかなかった。そんなとき、「大きいことをしてほしいのではない。みなさんがここで見て感じたことを、回りの人に伝えてほしい」という青年団の人の言葉を思い出した。そのときはたったそれだけ、と思ったけど、いま、これが自分が環境問題とかかわるスタートラインだと思う。▼この旅で出会った中国の朋友が、あれほどの困難の中で、たくましく前を向いて生きていること。ねばり強く、緑化に、地球の病に最前線でとりくんでいることは、決して忘れてはならないと思う。▼便利で、物がいっぱいあふれていて、文句ばかり言っている日本の君！一度中国へ来て、村の人たちと木を植えてみましょう!!

## ●井戸掘り●

98年には井戸掘りにも取り組みました。異常渇水に悩む広霊県苑西庄村にテレビ取材が入ったことがきっかけとなり、井戸掘りの資金協力を募ったところ2つの助成が得られたので、苑西庄村と霊丘県史庄郷の2か所で井戸を掘りました。地下水を汲み上げて使う井戸は、渇水の根本的な解決にはなりません、水の確保で得られた安心が緑化への意欲をうむことを願っています。

## ●CDM 委託調査●

環境庁からの「クリーン開発メカニズム事業調査」の委託をうけ、99年度から2年度にわたって、「黄土高原における緑化の可能性調査」を実施しています。

「水土流失と沙漠化の防止」「環境破壊と貧困の悪循環の解決」に加えて、「地球温暖化の防止」という新しい枠組みでこの緑化活動をとらえる契機になりました。

マツの生育状況調査、緑化にたいする農民の意識、自然林の植生調査などにとりくんでいます。新しく中国での緑化を考えるグループ、企業などにも参考になることと思います。

## ●災害救援活動●

災害救援はGENの活動目的ではありませんが、困ったときに助け合っこそ協力活動。大同市で95年の水害、99年の地震、張家口市で98年の地震と3度にわたって救援活動に取り組みました。

95年の水害では、大同市北部で6万世帯、24万人が家を失いました。雨で倒壊した小学校の再建に義援金をおくりました。98年の張家口市の

地震では、震源から80kmの天鎮県にいた高見事務局長が被災地にかけつけ、いちはやく現地のようにすを世界に報じました。それまで関係がなかったところですが、阪神大震災の被災者として見過ごすことはできません。ここでも小学校の再建に協力しました。

99年には大同県と陽高県が地震におそわれました。このあたりはこの

10年間に3度の地震にあっています。外務省草の根無償の協力も得て学校の再建に協力したほか、干ばつでタネもなくなってしまった農家に優良品種のタネを供給するための協力もおこないました。

\* \* \* \* \*

この9年間で活動のはばはずいぶんひろがりました。今後ともみなさんのご協力をよろしくお願いします。

### 年賀状に絵ハガキ『中国・黄土高原』をご利用ください

橋本紘二さん撮影の絵ハガキでひと味違う年賀状はいかがですか。『緑化』、『春』、『秋・冬』の冬の4枚がおすすめ。

◆絵ハガキ『中国・黄土高原』（1組8枚入り・カラー）

▼『春』『夏』（郵便番号枠5ケタ）.....50円／『秋・冬』『緑化』.....60円▼送料別途。1組＝90円、2組＝160円、3組＝200円、4組＝240円。5組以上の場合は送料サービス。

▼10組以上の場合は20%引きになります。

## 体験を伝え、みんなに呼びかけよう！

サントリー労組ワーキングセミナー

黒木 俊彦（サントリー労働組合書記長）

サントリー労働組合では、「中国黄土高原ワーキングセミナー」を98年から開催しています。今年も第3回目のセミナーを9月9日～16日の日程で開催しました（9/14～16は上海の当社工場見学・現地勤務組合員との交流会を実施）。

このセミナーには、GENがおこなっている中国の黄土高原での緑化活動のお手伝いをする事で組織としてのボランティア活動を推進していくということとともに、もうひとつ大きな目的があります。組合員の自己啓発促進ということで、普段の生活とまったく違う世界に自分を置き、普段はなかなか体験できないことをすることであらためて自分を見つめ直す機会にしてほしいということです。やろうという意志はあっても普段なかなかできていないボランティア活動をするのはもちろんのこと、小学校を訪問し子どもたちと交流をしたり、大同市青年連合会の人たちと一緒に食事したり、さらには

今年から農家へのホームステイも加えて実施しました。

私自身も初めての参加ということで、感動・驚きの連続でした。特に子どもたちとの交流が印象的でした。砂漠化により野菜もあまり育たず「黍・粟・とうもろこし」等を主食とする食生活、さらには限られた水での生活といったわれわれ日本人からすると考えられない環境の中でも、子どもたちは「とてもきれいな目」をしており「純粋な笑顔」でわれわれを迎えてくれました。この子どもたちのために、われわれの手で何かしてあげられることはないのかと強く考えさせられました。

われわれが今回植えた苗はほんのわずかな数でしかありません。そういう意味では、GENの活動のお手伝いをしたというレベルのものではなかったかもしれません。しかしながら、「継続は力なり」ではありませんがこのセミナーを今後も継続していくことが重要なことだろうと考えています。今回の

このセミナーを終えて参加メンバーから「もっとたくさんの人に参加してもらえるように、われわれの体験をしっかりと伝え、もっとみんなに呼びかけていこう」という意見があったことは大きな収穫だと思います。

今回のセミナーでは、参加メンバーそれぞれが、このセミナーのテーマでもある「自分探しの旅」にふさわしい何かをつかめたのではないかと思います。それが、今後生きていくうえでの活力に必ずなっていくと考えています。

最後になりましたが、こんなに素晴らしい体験をさせていただいたGENのみなさん、そして中国でお世話になったみなさん、本当にありがとうございました。



子どもたちといっしょに木を植える

## GEN自然と親しむ会 山しごとと体験

里山の管理、間伐などを行うグループが各地で活躍しています。あまがさき山仕事体験隊は兵庫県猪名川町の山林の手入れを続けているグループです。

1月の自然と親しむ会は、あまがさき山仕事体験隊の活動に参加させていただきます。道具の都合で参加者数が限られるので、お申し込みはお早めに。

●日時：200年1月13日（土）9時30分～15時

●場所：尼崎高原ロッジの構内裏山

●定員：10名（申込み順）

●集合：9時30分、ロッジのロビー

●参加費：800円（保険料を含む）

●持ち物：作業のできる服装、昼食、飲み物、軍手、温泉入浴後の着替え

●申込み：12月25日までにGEN事務所へ

※作業終了後、高原ロッジの天然ラドン温泉に入れます。

## 2001 春の黄土高原ワーキングツアー予告

21世紀最初のGENの黄土高原ワーキングツアー。春にむけて動き出したばかりの黄土色の大地で、村の人たちといっしょに木を植えませんか。

村での植樹作業や交流のほか、霊丘自然植物園、カササギの森などを訪ねる予定です。

●日程：200年3月25日（日）～4月1日（日）

●費用：一般＝17万円、学生＝16万円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、ビザ取得手数料、GEN年会費ふくむ）

※中国国際航空利用 ※関西国際空港発着 ※成田空港利用の場合、2万円（航空運賃の差額）高くなります。 ※北京もしくは大同で合流ご希望の方はご相談ください。

●定員：30名

●締め切り：2月25日（最近はすぐ定員になります。お早めに申し込んでください。）

【スケジュール案】

3月25日 午後出発。夕刻、北京着。夜行列車で大同へ。

26日早朝、大同着。三嶺村、懸空寺をへて霊丘県へ。

27日霊丘自然植物園で作業。

28日小学校付属果樹園で作業。村の農家でホームステイ。

29日大同県“カササギの森”で作業。地球環境林センター泊。

30日雲崗の石窟、万人坑見学。センターで作業。夜行列車で北京へ。

31日早朝、北京着。終日北京観光。松鶴大酒店泊。

4月1日午前北京発。午後帰着。



## アイヌ料理を作って食べて話そう!

- 日時：11月25日(土) 15時～19時
- 場所：大阪市立浅香人権文化センター
- 主催・申込み先：大阪市立浅香人権文化センター (TEL. 06-6697-0971 FAX. 06-6697-1964)
- 協力：チコロナイ友の会
- 募集：20人
- 材料費：1,000円

## アイヌの木彫・刺しゅう体験教室

- 日時：11月26日(日) 10時～15時
  - 場所：大阪市立弁天町市民学習センター
  - 主催：チコロナイ友の会
  - 協賛：大阪市立弁天町市民学習センター
  - 募集：木彫り20人、刺しゅう20人
  - 材料費：どちらも2,000円
  - 申込み：チコロナイ友の会・勝山 (TEL. 0726-27-5390 FAX. 0726-33-9274)
  - 講師：貝澤美和子さん、貝澤真紀さん
- ※交流会も計画していますので、上記勝山さんにお問い合わせください。

## ワン・ワールドフェスティバル

おなじみのワン・ワールドフェス、今回は新年早々に開かれます。「世界の言葉でおめでとう！」なんてコーナーもありますよ。そのほか、恒例の関西のNGO活動紹介にはGENも参加します。お気軽に遊びにきてください。

- 日時：2000年1月7日(日) 10時～18時
- 場所：大阪国際交流センター(地下鉄「谷町9丁目」駅、近鉄「上本町」駅下車)
- 主催・問合せ：ワン・ワールドフェスティバル実行委員会 (〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6 大阪国際交流センター2F 関西国際交流団体協議会内、TEL. 06-6773-0256 FAX. 06-6773-8422 e-mail : oneworld@prontmail.ne.jp)

【パネルディスカッション】  
「チャレンジ! 海外ボランティア」  
10時30分～12時 ▼コーディネーター：藤野達也氏((財)PHD協会)  
「地球市民教育と共生社会～学びの広がり・市民活動を通して」12時30分～14時30分 ▼パネリスト：岩崎裕保氏/甲斐田万智子氏/斉藤千宏氏 ▼コーディネーター：米田伸次氏

【シンポジウム】  
「ボランティア新世紀～共に生きる世界をつくるために～」15時～17時30分 ▼パネリスト：アグネス・チャン

氏/金子洋三氏/星野昌子氏/横澤彪氏 ▼コーディネーター：小谷直道氏

## ポンカンをどうぞ

高知の田中さんから冬のたよりです。今年のポンカンは豊作だそうです。

- ポンカン(低農薬・有機栽培)

A	3L/2L	5kg	化粧箱	4,000円
B	〃	〃	普通箱	3,700円
C	〃	3kg	化粧箱	2,600円
D	L	5kg	〃	3,500円
E	〃	〃	普通箱	3,200円

○出荷：12月ごろ～来年2月

★送料別途。関西630円、関東840円(20kgまで)。

★お申し込みは田中隆一さんまで。  
〒781-7411 高知県安芸郡東洋町甲浦  
TEL/FAX. 0887-29-2500

※売り上げの一部をご寄付いただいているので、ご注文の際、「GENの紹介」とひとこと添えてください。

## 編集後記

昔、映画『200年宇宙の旅』を観たときには、200年なんて遠い未来だと思っていました。200年が現在のいま、映画でみたあの巨大宇宙ステーションは実現していませんが、国際宇宙ステーション建設がすすんでいます。

かつてのSF少女としては宇宙への夢も捨てがたいのですが、地球上の問題をなんとかする方にもっともっと力を入れてほしい気がします。(東川)